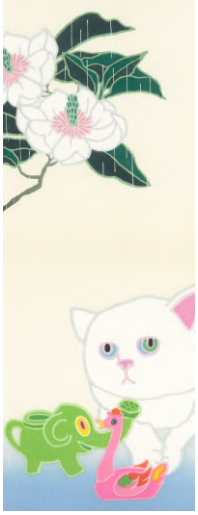
Mai Miyake | ミヤケマイ
B 面の猫
August 25 - September 9 , 2021

YUKIKOMIZUTANI では 8/25-9/9 まで、ミヤケマイ「B 面の猫」を開催いたします。
ミヤケマイは日本人の繊細な美意識や感覚をベースとして、工芸、現代美術、デザイン、文芸など既存の枠組みを超えた幅広い表現活動を行なっております。B 面の猫と題した今回の木版画は、2 月、6 月、8 月、10 月、11 月それぞれを猫の姿を通して描いております。日本人にとって猫は古くから生活の中に馴染む身近な存在であり、江戸時代後期には歌川国芳ほか多くの浮世絵師が猫をモチーフとして描いてきました。江戸時代の浮世絵と現代の社会風俗をつなぎ、伝統的な木版画の技術を用いて表現した本作品には、過去と現代を天衣無縫に繋ぎ合わせるミヤケマイの作家性が感じ取れます。季節や暦の移り変わりに鈍感になる現代において、季節の移ろいをたのしめる作品となっております。
ミヤケマイの最新作を是非、ご高覧ください。

B 面の猫 - 如月 (二月)

衣更着（きさらぎ）。まだ寒さが残り衣を更に着る月。
旧暦の春。節分を境に新しい一年が始まり、それまで溜めた汚れを、豆を投げつけることで追い払い新しく投げた種（豆）から芽が出て新しい良きことが実りますように。



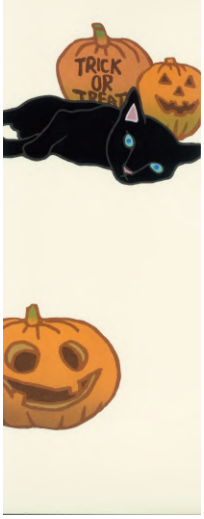
B 面の猫 - 水無月 (六月)

（みなづき・みなつき）田に水を入れる月（「無」は「の」の意味）瑞穂の國の私たちには水は恵みの雨、６月は今後の稲作の取れ高、今後の吉凶を分ける季節。飛ぶ前にしゃがむように、雨降って地固まるように、雨は悪者ではなく必要なもの、むしろ恵みなのです。

YUKIKOMIZUTANI
TERRADA ART COMPLEX II 1F, 1-32-8 Higashi-Shinagawa
Shinagawa-ku, Tokyo 140 0002, JAPAN
TEL +81 (0)3 6810 3885
FAX +81 (0)3 6810 3884
office@yukikomizutani.com
https://yukikomizutani.com

B 面の猫 - 葉月 (八月)

（はづき・はつき） 木々の葉落ち月（はおちづき）
８月は緑の美しい季節、お盆には祖先の皆さんがあちらの世から戻り、私たちも故郷のある人は戻り、皆原点回帰する。早く帰りたい魂は、みずみずしい緑の胡瓜（早馬）に乗って帰り、ゆっくり帰りたい人は牛歩で茄子に乗って帰る。猫に乗って帰るのは誰だ。



B 面の猫 - 神無月 (十月)

（かみなづき・かんなづき）新穀を神に捧げる神嘗月（かんなめづき）
日本では神が一堂に会して出雲にお出かけになっている頃、南米のお盆＝死者の祭りである、ハローウィーンの仮装をして、子供達が街を駆け回りお菓子を集めます。私たちの命は有限で、そして永遠でもあるということを、循環している全ての、いいことは悪く、悪いことはいいことだと教えてくれます。

B 面の猫 - 霜月 (十一月)

（しもつき） 霜の降る月、夜がだんだん長くなり大地が小休止し、虫や動物たちが冬眠に入るのもこの頃。５月上旬（八十八夜の頃）から６月に摘みとられたばかりの新茶を詰めた茶壺の口を開けて、炉開きの茶正月。夏の間に仕込んだものをゆっくり楽しむ冬の到来。

YUKIKOMIZUTANI
TERRADA ART COMPLEX II 1F, 1-32-8 Higashi-Shinagawa
Shinagawa-ku, Tokyo 140 0002, JAPAN
TEL +81 (0)3 6810 3885
FAX +81 (0)3 6810 3884
office@yukikomizutani.com
https://yukikomizutani.com

ミヤケマイ「B 面の猫」
版種 : 木版画
限定 : 120 部
画寸 : 16.0×41.5cm　紙寸 : 22.0×47.5cm
紙種 : 越前生漉奉書
彫師 : 永井紗絵子
摺師 : 久保田憲一 (如月 / 神無月)　川合千春 (水無月 / 葉月)
　　山本駿 (霜月)
出版元 : (株) コンポジション
販売元 : YUKIKOMIZUTANI
制作年 : 2021 年

ミヤケマイ

日本の伝統的な美術や工芸の繊細さや奥深さを過去・現在・未来をシームレスにつなげながら、物事の本質や表現の普遍性を問い続ける美術家。一貫したたおやかな作風でありながら、鑑賞者の既成の価値観をゆさぶり、潜在意識に働き掛ける様な作品で高い評価を得る。斬新でありながら懐かしさを感じさせるタイムレスな作品は、様々なシンボルや物語が、多重構造で鑑賞者との間に独特な空間を産み出す。媒体を問わない表現方法を用いて骨董・工芸・現代美術・デザイン、文芸など、既存の狭苦しい区分を飛び越え、伝統と革新の間を天衣無縫に往還。

国内外で展覧会を中心に活動。最近の主な展覧会：ワコールスタディホール京都「面影」2017、金沢 21 世紀美術館「変容する家」2018、釜山市美術館「BOTANICA」2018、OPAM「アート & デザインの大茶会」2018、ICOM 京都大会 / 二条城・世界遺産登録 25 周年記念「時を超える美の基準」2019、「さいたま国際芸術祭」2020、さいたま市大宮盆栽美術館 第 6 回「世界盆栽の日」記念「ART Sightama さいたま国際芸術祭 Since 2020」、「ART BASEL 香港 2021: UNLIMITED」今年 8 月に展示した柿傳ギャラリー個展「夢の跡」2021、しぶや黒田陶苑「神在」、壺中居「兆し」、など工芸や骨董のギャラリーでも展示が多い。自身の展示の他 SHISEIDO THE STORE ウィンドウギャラリー、京都芸術大学美術工芸学科選抜展クロスフロンティアなどのキュレーションも手がける。それ以外にも水戸芸術館現代美術ギャラリー「クリテリオム 65」、村越画廊「祈」ポーラ美術館「天は自らを助くるものを助ける」、メゾンエルメス「雨奇晴好」他多数。講談社から詩と小説の間の掌握小説『お休みなさい。良い夢を』とプラープダー・ユンと共著の実験的な小説『色 Colors』三山桂依の名前で小説 2 冊を出している。映画や本、日本美術のコラムなど連載を雑誌などで執筆。羽鳥書店などから計 4 冊の作品集が出ている。最新作品集『蝙蝠』を 2017 年森岡書店にて発表。
2008 年パリ国立高等美術大学校大学院に留学。京都芸術大学教授。http://www.maimiyake.com